

柳営日次記

寛文二年

正月

朔日

辰下刻御白書院大廣間^江 出御御一門其外諸大名^并諸番之御目見御規式如例年

御太刀 本多土佐守 御刀 大久保兵部少輔

卯上刻被成御昼御手水御髮御半上下御座間御熨斗御茶 菓子大服被召上御休息之間御衛堅之餅當之御膳御給仕

長袴御行水御座間御裝束品川内膳正役之被遊御手水御持佛堂御參詣即刻御座間老中御目見御黒書院出御酉刻

御座間居蘇白散被召上之

二日

辰下刻御白書院大廣間^江 出御御一門方諸大名^并諸番其外御扶持人職人迄 御目見御作法如例

緋御裝束 御太刀 本多土佐守 御刀 石川能登守

一 例年ハ鳥帽子着百人御番より出といへとも去年より御番衆御礼有之ゆへ鳥帽子着不出之

御座間居蘇白散御例之面々^江被下之 宗悦役之

三日

巳上刻御白書院大廣間 出御如例年今日御礼之衆不殘御目見 御腰物 岡部志摩守

御太刀 斎藤美作守

雅楽頭出座可謠之旨傳之

一 柳生飛騨守召之御劔術御稽古初被遊之依之 御手自昆布のし鮑等被下之

一 馬場へ 御成御馬召初有之 入御依之諏訪部彦兵衛へ 小袖三西川清左衛門へ同二被下之

一 雅楽頭御録^江出大夫^江被下処之白綾小袖渡之其外折紙 御奏者番渡之

四日

前夜ハ 御禮召不罷出奥

一 昨夜の謠初之節申案不作法為躰曲事被思召急度雖可被

仰付年始御祝之義故被成御有免也然共為過意明五日より

當中へ可相詰之旨被 仰出之

親世大夫 保生大夫 十大夫 近藤權右衛門 同六郎次郎

同權七郎 日吉久兵衛 高井平右衛門 福王茂兵衛

秋本佐右衛門 鷲傳右衛門

五日

辰下刻御白書院 出御毘沙門堂御門跡^并上野出家衆例年 今日御礼申上出家山王伊勢神主迄 御目見

御刀 安部伊勢守

一日門ハ旧冬より日光登山也

六日

辰刻御白書院 出御増上寺同所之出家^并遠國近國之出家社人神主御目見如例年

御太刀 本多土佐守 御刀 大久保出羽守

七日

左馬頭殿年始御煩故延引也 午刻御黒書院 出御御一門方七種之御祝儀登 城年始御礼

本羽林例年雖不被召 御前去年家督被相續故如此也 御太刀目録ッ 水戸中將殿 松平右京大夫

旧冬 御母堂御忌中年給御礼延引及今日也 一 松平右京大夫井伊玄蕃頭保科筑前守松平下総守登 城

御目見 奥 常ハ御半袴といへとも甲府水戸兩殿年頭御礼^二付長袴

同 一 幸若舞御覽

八日

天樹院御方大奥 被為 入 八丈島廿反 内帯織五反 伽羅二百目 被進之

奥 御風疹被為在候^二付 御菓被召上

九日

無事

奥 老中為伺御機嫌暮六時登 城

十日

此頃少々御不例^二付為伺御機嫌御一門國持大名より使者上ル 日光御目付代 御使番 能勢治左衛門

被 御付

肥後守空印登 城

日光 御宮 御堂へ為年始 御名代大沢兵部大輔阿部伊豫守

被 遣旨

十一日

御具足御祝如例年出仕 御目見 御連歌會有之

松幾代春の恵みの深みけり 昌程

三の光の長閑なる山 嶺かすむ夕曙雨はれて 玄祥

浦半はるかに雁の帰るなり 純海^{戒善院}

湊田の末々まれも鋤渡し 堯盛^{善見院}

人の往来のしけき里々 榮与^{根生院}

月ながら竹の下道明はなれ 其阿

秋の螢はいつち飛らん 周栄

右御作法如例

一 伊勢京伏見院山崎大坂奈良堺右之町人社人御暇如例時服

銀被下之 少々御風氣^二付御表 出御無之

奥 御不例^二付 出御無之空印奥^三 御目見

十二日

式日初伊豆守出座 為御機嫌伺御謔代大名登 城御氣色御快然之間明日^ハ

登 城可為 無用之 奥 幸若舞御覽

十三日

御暇時服式 坂本屋弥七

十四日

無事

十五日

如例月諸大名出仕然共少々御不例御目見無之遠國野寺社

御暇

御咳氣雖御快余寒雪中為御養生御表

御暇時服式

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

十九日

松平伊豆守信綱持病氣付登 城無之

駿河町奉行衆御預御藏所指上度内々御訴訟仕候付諸星

惣左衛門御代官被 仰付之

千代姫君大奥被為 入御迎久貝惣左衛門夜に入幸若舞

被 仰付之

奥 姫君様へ伽羅源治郎殿へ勅作折枝蘭鏡二部鳥二右兵衛

殿へ御土産枝珊瑚一

駿府御城近辺御領所只今迄彼地町奉行渡辺孫助猪子左

大夫支配之所御代官被 仰付候処訴訟付諸星惣左衛門

御代官被 仰付候

奥 幸若舞

廿日

辰下刻紅葉山御佛殿御參詣御装束供奉行列如例

日光婦

大澤兵部少

觀世

保生

十太夫

平右衛門

外七人

右御謠初作法悪敷付同五日より相詰候処今日御赦免

奥 松平伊豆守御尋上使大和守被遣之昨日付持病登 城

無之付也

去三日 御謠初之節申葉輩不作法為躰故違御氣色毎日殿

中可相詰旨被 仰出令勤仕之所今日御免被 仰出

御太刀 本多土佐守 御刀 大久保出羽守 御香 松平紀伊守

御簾 吉良若狭守 豫參 雅楽頭 御供 豊後守 美濃守

御先立 雅楽頭 松平右京大夫 井伊玄蕃頭 御目見

毘沙門堂拜迎 尾黄門 紀宰相水戸羽林陪拜

廿一日

松平伊豆守持病付

上使

夜八時 下谷茂庵所 出火

奥 大久保出羽守

〃

〃

〃

〃

廿二日

松平隱岐守

右卒去之旨申上 但願死也

式日 出座豊後守

廿三日

無事

廿四日

辰下刻紅葉山御佛殿御參詣御装束供奉

御太刀 本多土佐守 御刀 松平因幡守 御香 石川能登守

御簾 吉良若狭守 豫參 豊後守 御供 美濃守 御先立

豊後守 松平右京大夫 井伊玄蕃頭 御目見

尾黄門 水中将 紀宰相陪拜 方丈奉迎

廿五日

日光御門跡日光より下山付上秋宮内大輔被遣之

御菓子被遣之

無事

廿六日

御病中出精相勤付松平紀伊守成瀬惣右衛門本多金右

衛門時ふく三ッ被下之

御暇時服十

御暇

廿七日

水谷伊勢守

松平右京大夫

侍 松千代

右京に改

廿八日

如例月諸大名出仕 御目見

二丸 渡御

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

伏見殿

門跡

方使者

遠國出家

參府御代官

御目見

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

御目見
女院御所御使
鈴木三左衛門
三枝権左衛門
岡部源之助
奥御小姓
被 御付

小出大和守戸川土佐守分部若狭守堀美作守年始御礼太
刀目錄献之

年頭
太刀目錄 參上
伏見殿使者
梶井宮使者
寺家宮内卿
中西李之助
園満院宮使者
同断
萬物

二東一卷
東卷
東本
八幡
遠州
身延

二東一卷
東本
八幡
三井寺惣代
幸丸使者
三州

進物 參上
遠州見附
豆州修禪寺
御奥屋

太刀目錄
長田十太夫
大橋五左衛門
長谷川刑部

此外遠國寺社人教輩御礼
市口伊豫
文右衛門

廿九日
日光輝
御目見
阿部伊豫守
伊豆守病氣為御尋
上使 本多土佐守

柳宮日記記
寛文二年
二月

朔日
辰下刻御白書院 出御御装束日光久能山御鏡御頂戴之
御太刀 本多土佐守 御刀 大久保出羽守

日光御門跡年始御礼上野出家并遠國出家御目見如例
午刻於下谷安藤傳右衛門組之歩行之衆志賀与右衛門宅
出火池田帶刀組之与力八人御鳥見一人類火

二日
無事

三日
遠國之出家御暇銀小袖被下之
三州 大樹寺
駿州 宝臺院
八幡社務 善法寺
鳳來寺学頭 松高院
久能学頭 德音院

金一枚
時ふく式
金一枚
時ふく式
時ふく三
小袖式
三
三井寺惣代
豐藏坊
岩井坊
神入惣代
森本市之丞
駿馬
妙寿院
竹生嶋
吉祥院
竹坊名代
神村弥三右衛門
女院御所御使
鈴木三左衛門

銀十枚
時ふく式
銀十枚
時ふく式
時ふく式
御暇 銀五枚

四日
巳刻御白書院 出御
御刀 松平内記

金馬代
時ふく三十
式十
六羽折
御暇

金馬代
時ふく三十
式十
六羽折
御暇

金馬代
時ふく三十
式十
六羽折
御暇

金馬代
時ふく三十
式十
六羽折
御暇

金馬代
時ふく五
初見
阿波守惣領
蜂須賀千松
奥平美作守
五嶋淡路守
松平丹波守
安藤對馬守
保科越前守
保科主水
石川若狭守
永井右近大夫
今川大學
加々爪圖書
大久保加賀守
木下右衛門大夫

金馬代
時ふく十
同
娘淡路守へ婚礼御礼
娘對馬守へ婚礼御礼
娘對馬守へ婚礼御礼
繼目御礼
久留島信濃守
佐久間備中守
土方備中守
建部丹波守
織田信濃守
遠山信濃守
池田越前守
一柳對馬守
高木主水正
井上筑後守
野野老岐守
松平監物
植村志摩守
渡辺大隅守
彦坂老岐守
稲葉美濃守
松平日向守
石川主殿頭
松平佐渡守
小笠原老岐守
酒井河内守

金馬代
時ふく十
御馬
舊冬叙爵御礼
舊外叔父甲斐守
獅子被 御付御礼
御暇

金馬代
時ふく十
御馬
舊冬叙爵御礼

金馬代
時ふく十
御馬
舊冬叙爵御礼

金馬代
時ふく十
御馬
舊冬叙爵御礼

金馬代
時ふく十
御馬
舊冬叙爵御礼

金五枚 時ふく三羽折 京都へ御暇

時ふく三羽折

時ふく三羽折

金五枚

銀廿枚 時ふく式羽折 京都へ御暇

遺物献上 御刀 国行 代金十五枚

同 御脇指 延寿 国重

同 御脇指 延寿 国重

小出越中守

彦坂老岐守

渡辺孫助

猪飼半左衛門

稲垣備左衛門

佐野主馬

石川播磨守

保科彈正忠

五日

宗對馬守宅 雅樂頭豊後守振舞

西丸大手御門番松平若狭守松平主殿頭被 仰付

家譜 一大御番富田与右衛門次男平右衛門神田御殿被召出 御書

院番 式百俵

同断 一五左衛門正吉四男松平吉右衛門新に召出され神田御殿御

書院番被仰付式百俵被下

同断 一午之助重成四男丸毛才兵衛新に神田御殿書院番三百俵被下

同断 一市右衛門次男櫻井権兵衛神田御殿御書院番式百俵被下

六日

式日寄合一作四日延引 付美濃守出座

御一門方國持大名 江藏暮御内書出

時ふく三羽折 御暇 柳生飛驒守

一柳生飛驒守 但馬守十七回忌 付御暇内膳も召連可能越旨

七日

午刻二丸 渡御

二丸 御乘馬

御弓御鉄炮野頭招殿中火事之節火元 罷出候様被 仰付

候處向後無用 可仕旨然間平川口御番相勸候様被 仰付候

是彼番所 近年 寄合之面々 勤仕 付也

八日

一 松平民部少輔事於 御前久世大和守土屋但馬守板倉筑後守並に於御側可被召仕之旨被 仰付之

大御番頭

松平民部少輔

御書院番頭

戸田備後守跡

定火消

内藤弥三郎跡

駿府定番

井戸新右衛門跡

御鉄炮頭

松平新平跡

御小姓組与頭

新庄惣兵衛跡

新規

定火消

御作奉行 切支丹改並

中奥御番

戸田備後守

内藤彌三郎

安藤内蔵介

松平新平

新庄惣兵衛

丹羽勘兵衛

蒔田権之左

保田若狭守

野々山彦右衛門

永井右衛門

松平帶刀

松平縫殿介

秋浦市右衛門

田中内匠

仰付候所御番御免

右五人唯今迄平川口御門番被

是右之御門番御弓御鉄炮頭に可相勸旨昨日被 仰付 付也

御徒安藤傳右衛門組朝比奈三郎兵衛秋浦市右衛門家来出

入有之三郎兵衛今日切腹

去頃安藤傳右衛門組御徒朝比奈三郎兵衛義秋浦市右衛

門家来若黨招三郎兵衛宅殺之付 御穿義之上切腹被

仰付男子式人へ 御構無之

御歩行目付兩人檢使 被遣之

於御座間任官御礼

甲府宰相殿

館林宰相殿

戸田善次郎

榊原久太郎

小佐手奎之介

内藤源三郎

三浦五郎左衛門

堀田五郎左衛門

右 新規

右 定火消被 仰付之

駿府 初筈献之紅葉山両山へ御進献之

十日

土御門二位より巳日御祓進上之

戸田備後守

内藤彌三郎

丹羽権兵衛

右 引渡有之

一 松平加賀守 振舞雅樂頭豊後守

一 伊豆守氣色御尋 大和守

十一日

日光御門跡 御使 以 如例銀子百枚小袖五被遣之正月御

祈禱御布施也 上使 吉良上野介

土御門跡福寿丸使者銀五枚被下例 小袖被下候得共當年

より如斯

尾張殿紀伊殿 上使御用不知

美濃守 豊後守

十二日

於評定所式日寄合豊後守出座

十三日 無事

松平山城守死去

雷一聲水雨降

十四日

宗對馬守城下去年極月廿四日焼失侍屋敷六十六軒町屋敷

六百四十三軒寺七宇舟廿五挺焼死八人也

十五日

如例月諸大名 御目見在之

銀三百枚 在所 今朝上使美濃守

時ふく三十 御馬 御暇 信州川中島

御目付掃

宗 對馬守

田中三左衛門

仁賀保内記

廿三日

金五枚 繼目御札
時服五 二条在番
御暇 時服三羽折

板倉隱岐守

中根日向守

本多豊前守

戸田源助

野呂六之丞

三輪五郎作

川西兵九郎

長坂傳七郎

本多甚太郎

天野又右衛門

勝谷甚九郎

川合平大夫

三田大八郎

同 平吉

西尾市郎右衛門

山田治兵衛

永井甚之介

板倉三郎右衛門

本多監物

松平圖書助

大番組頭八人

伴共十式人

伴式人

御席ニ 御目見去年相煩候ニ付及今日

御暇 銀五百枚時服五十今朝上使豊後守

御暇 銀五十枚時服五羽折御馬被下

遺物 備前助吉 御腰物 板倉阿波守献之

廿四日

増上寺御佛殿御名代豊後守

木下兵部少輔

右者跡式武萬五千石被 仰付

再出 富田大中寺後住 鎌倉 天岳院

奥一老中へうにこうる被下之伊豆守引 付因幡守へ被渡之

廿五日

無事 御灸

廿六日

無事

廿七日

已下刻御城廻り

御成はね橋酒井紀前上ヶ屋敷之内雁式ツ被捉之御三人

上ヶ屋敷二面 雁吹上御門より西丸江 渡御申刻 還御

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

御書院 町野老殿守組 北条新藏

廿九日

時服五 婚姻御札

〃 四 岡部内膳正

〃 三 朽木伊豫守

〃 〃 戸田摂津守

箱着 在所帰

御目付横田甚五郎新番組頭八木兵助相果是意趣有之

昨七半過甚五郎宅 兵助相越討果子細不知

家ノ御書院番通物番也

一 八木清十郎父兵助弟義甚五郎殺害いたし死跡式不立清

十郎部屋住三百俵其俵被下

奥 焔硝藏見分老中相越

晦日

金式枚 時服三

是 六郷橋奉行出来 付也

銀二十枚被下 父勘解由路役 禁中方被 仰付

紀伊殿道中へ御尋奉書

先頃被 仰出候老中御旗本方支配之差別

一 禁中方公家門跡

一 因持大名老万石以上并九千石以下交替之面々

一 大造之御普請同御作事并堂塔御建立事

一 知行割之事

一 異国御用之事

一 高家衆 御留守居方 大御番頭 御目付衆 町奉行

御旗奉行 御鑑奉行 御作事奉行 御勘定頭 御普請奉行

遠因奉行 遠因役人 御鷹方

右ハ老中支配

御書院番頭 御小姓組番頭 新御番頭 御小姓衆

小納戸衆 中奥衆 百人組之頭 御持弓御持筒頭

御目付衆 御使番衆 惣御弓御鉄炮頭 火消役人 歩行頭

小十人組之頭 西丸御裏御門番頭 御納戸頭 御船手衆

二丸御留守居衆 中門御番衆 九千石以下交替無之寄合

御膳奉行 御右筆衆 小普請奉行 道奉行 医師

儒者 御書物奉行 御細工頭 御貽頭 御臺所頭

永井五右衛門

大竹源太郎

杉江勘左衛門

御同朋 黒鐵頭 御中間頭 御小人頭
右ハ久世大和守土屋但馬守支配
一 久世大和守土屋但馬守内藤出雲守最前支配之与力向後
板倉筑後守松平民部少輔森川下総守可致支配旨被 仰出也

柳宮日記記
寛文二年
三月

朔日

如例月諸大名出仕 御目見
阿蘭陀かひたん御目見

一 猩々皮 二反 一 黒羅紗 二反
一 色羅紗 三反 一 小羅紗 三反
一 奥嶋 二十反 一 さんこしゆ 百一
一 さんくつし嶋 十五反 一 大加な金 十反
一 阿蘭陀掛金入 三反 一 糸花毛氈 二枚
一 金からかわ 十枚 一 文字目金 三
一 あんめんとう 老箱 一 ほろりとすてん 老

右之通献上之
板倉隱岐守
右 詰衆被 仰付之 阿部伊豫守安藤對馬守並可相勤旨
石川若狭守
板倉次郎右衛門
高木主水正
保科越前守
土屋能登守
渡邊越中守
板倉能登守

右之面々菊之間被相詰於山吹間御目見可仕旨被 仰付
奥御小姓被 仰付
能勢權十郎
大中正
龍光院
千村平右衛門
武田泰安
松波五郎右衛門

奥御灸
住職御礼 東巻
輪番代 〃
太刀目録 参上
一 束一包
箱者 参上
御代官

二日

無事

三日

已刻御黒書院御白書院大廣間 江 出御御両典御一門方諸
大名今日登 城之面々御目見
御刀 大久保兵部少輔

松平讚岐守
井伊玄蕃頭

右兩人向後御目見在之節老中並に御次之間 可相詰之旨
井伊玄蕃頭事如父掃部頭御礼之間致出仕可候之旨
時ふく三 御暇 高野山寺詣方 萬福院

四日

於評定所寄合豊後守出座土屋但馬守久世大和守唯今迄支
配仕来候國目付向後板倉筑後守松平民部少輔森川下総守支
配可仕旨被 仰出今日御引渡

久世大和守土屋丹間守内藤出雲守最前附屬之与力今日召寄之
板倉筑後守松平民部少輔森川下総守ハ大和守但馬守列座
引渡之
小笠原左大夫事昨日惣領吉兵衛切害之自分切腹云々は
先年乱氣引籠有之再發也

五日

已刻西丸 渡御於山里御花見已刻 還御
奥 三月五日西丸御休息御庭前櫻花之下 江 毛氈敷左右屏風
引連西の方ハ雅楽頭豊後守美濃守御向 二 着座御熨斗出 三

方 二 御菓子捧之老中へ き 被下 御引替御盃 御吸物御
一 献有之御肴出之二 献被召上御盃臺へ土器三并おさへ出之
御前被召上其御盃雅楽頭へ被下御肴被下豊後守美濃守右
同畢 三 御躰子入御吸物臺御肴引之老中退去後重 四 御菓子
出之御側之面々杖重餅酒被下之畢 五 御側之面々御馬乗
之戸田備後守組之番士九人乗之終 六 山里御茶屋 七 御膳
被召上七時 還御

六日

金十枚 大坂御歌番 渡邊丹後守
時服五羽折 御暇
奥 丹後守へ 御筆の古歌御召御折御手目被下之

老万九千式百石之内
老万七千式百石
分知
千石
分知
千石
同三男

抵津守懸願
安部丹波守
同 主膳
同 彌平次

右之外後藤源左衛門煩

茶屋四郎次郎
上柳彦兵衛
三嶋屋吉兵衛
龜屋庄兵衛
茶屋新四郎
橋本甚左衛門

七日

御小姓組番頭
森川下總守跡

松平縫殿頭
江原九郎右衛門
石原四郎右衛門
飯塚半次郎
稲葉權之助
溝口内記

右三人御小納戸被 仰付

右下館在番代被 仰付

金五枚
服式

松平紀伊守

右御奉公無怠相勤候 仰付也

御部屋奉御奉公無油断相勤付
金五兩
被下

御小納戸
松平治郎兵衛
宮崎七郎右衛門
鶴殿十郎左衛門
遠山半左衛門
萬年佐左衛門
成瀬惣右衛門
本多金右衛門
三宅市右衛門
山岡十兵衛

奥老衰ニ付泊番御役御免掛計御納戸同前ニ可相勤旨

御暇金三枚時服式羽折
青山藤右衛門

右渡辺丹後守為大坂御定番被差遣之ニ付引渡被遣旨

御暇時服式

紀重相使者
天方四郎三郎
奥廣戸平兵衛御鎖子口かき番被仰付之

八日

已刻為御鷹野高田筋被為 成高田馬場 御馬被為
召之御側衆御馬被 仰付上覽高田御茶園 御膳被 召上
未下刻 還御御物敷
雁 八十三 御奉 鴨 三十八 御二生取

御成道より伊豆守 上使松平民部少

御成先へ空印雅樂頭老中御香被差上之
一 空印屋敷前 御目見
一 伊豆守へ御奉の雁を因幡守迄被下之

御供 土屋但馬守 松平民部少輔 森川下總守 永井伊賀守
下屋敷被下之 岡部丹波守 中根日向守 松平左近大夫 戸田淡路守
池田帯刀

御暇時服一ツ

銀十枚

九日

御小姓組番頭松平縫殿組中引渡
昨日之御鷹野之雁御向典御三人方以上使被遣之

上使松平備中守 保科肥後守 松平讚岐守 井伊玄蕃頭
同断 上使飯倉後守 尾張中納言殿 水戸中將殿 紀伊宰相殿
雁式一ツ 昨日御鷹之雁被遣 左馬頭殿 右馬頭殿 尾張中納言殿 水戸中將殿 紀伊宰相殿

右之外詰衆御奏者寺社奉行被遣之

雁老 土井大炊頭 阿部伊豫守 永井右近大夫 安藤對馬守
板倉隠岐守 朽木伊豫守 内藤飛騨守 松平出雲守
井上河内守 太田備中守 酒井日向守 松平備前守

土井兵庫頭 土井能登守 永井伊賀守 渡辺丹後守

天樹院御方高田御方千代姫君御方中丸御方被下之
本理院御方 雁式一ツ

高田御薬園清雲ニ銀子十枚被下是 昨日 御成ニ付今夕
舞被 仰付之
難波田権六郎大御番被 仰付之

十日

新御番組頭 八木兵馬跡
御鷹師 貴志彌兵衛
御鷹師 間宮藤太郎
小栗五左衛門
清水權之助
阿部清左衛門
加藤伊織
加藤午之助
大平角助
三橋彌市右衛門
真野八郎右衛門
清水權之助

右一昨日被為 成候ニ付也

空印酒井雅樂頭阿部豊後守稲葉美濃守於御前雁拜領之
明十一日於西丸御慰御能被 仰付候間可致見物旨高家詰衆大目付
御勘定頭町奉行御作事奉行等へ達之
駿府御番嶋与右衛門四中相煩ニ付江戸へ下度旨願之通見藤
左衛門も同段ニ付願之通達 被遣之

十一日 御慰之御能被 仰付
今日西丸ニ御慰之御能被 仰付

御刀 大久保出羽守 雅樂頭 豊後守 美濃守 大和守 但馬守御供
御向典詰衆頭御振舞被下之
竹生嶋 親世
壺 平 十太夫
松 風 保生
羅生門 平右衛門
土 蜘蛛 十太夫

感陽宮 保生

祝言 十郎兵衛

狂言 二人袴 傳右衛門 韋左衛門

伊文字 喜左衛門 首引 半兵衛

柿山伏 佐左衛門 樂阿弥 傳右衛門

駿府の初茄子献上之則紅葉山両山へ御進献

青山藤右衛門組坂本小左衛門御小納戸被仰付之

奥坂本小左衛門御小納戸役被仰付之

十二日

式日 出座美濃守

貴志彌兵衛組中引渡之

久世大和守

板倉筑後守

土屋但馬守

松平民部少

御教寄屋方支配被 仰付之

御茶之湯道具方

只今迄伊豆守相勤候

御腰物方支配被 仰付

十三日

御腰物方引渡有之御教寄屋方利齋宗恩今日御引渡御腰物

奉行押田三次郎病氣故御役御免

蘭人御暇時服三十被下立合北条安房守保田若狭守妻木

彦右衛門通事志築孫兵衛へ小袖式被下之被仰渡三ヶ条之内

あたらしく被申所が以下去年より新加之文言也

奥 高田様へ近江ヲ以伽羅二百七十五匁被遣之

十四日

参府之證人太刀目録献之

上杉掃部守家来

須田三弥 安田主殿 清野内膳 細川越中守家来

宗對馬守家来 立花飛騨守家来 伊達大膳大夫家来 有馬松千代家来 南部山城守家来

古川次右衛門 矢嶋登之助 桑折藏人 稲次 李 北九兵衛

松浦肥前守家来 毛利伊勢守家来 松浦藏人 磯部平兵衛 水中将家来

御暇證人 小袖式ツツ 松平志摩守妹まん 飯田新右衛門娘たけ

同小袖式羽折ツツ 本庄牛松 長屋十兵衛 奥川加右衛門

水中将家来

松平主馬 梶川弥市郎

細川越中守家来

小笠原又十郎 清田主馬

有馬松千代家来 南部山城守家来

稲次 李 北九兵衛

飯田新右衛門娘たけ

細川越中守家来

沢村大之丞 山名孫九郎

小袖式 宗對馬守家来

古川平兵衛 小袖式羽折 伊達大膳大夫家来

有馬松千代家来 穴戸李助 同 十時甚次郎

毛利伊勢守家来 小袖式羽折 南部山城守家来

沼長十郎 中根伊織 小袖式 松浦宇右衛門

御暇時服式 渥美傳六郎

十五日

如例月諸大名御目見有之諸国出家御礼五人

御刀 大久保兵部少輔

伊豆守氣分以外 上使但馬守

東卷 出世御礼

東卷 出世御礼

繼目

東卷 出世御礼

進物

東卷 出世御礼

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

鳥目 參上

家ノ新右衛門下

一 御書院番井戸新右衛門家督 招權入能

十九日 無事

為何御機嫌國持大名衆より使者上ル

廿日

上野御名代豊後守參詣

廿一日

駿府の飛脚重 茄子献之

廿二日

評定所式日豊後守出座

廿三日

大名家来交替如例年

諸家中證人各太刀目録献之

参府

縮甘把

太刀目録

時服式

太刀目録

太刀目録

太刀目録

太刀目録

太刀目録

太刀目録

太刀目録

太刀目録

太刀目録

太刀目録

太刀目録

太刀目録

太刀目録

太刀目録

太刀目録

太刀目録

御暇之證人

紀伊大納言殿家来

加納五郎作

松平加賀守家来

父時田對馬守

奥村多門

成瀬藤藏

松平越前守家来

松平庄兵衛

酒井孫四郎

日置左門

土肥助次郎

石川五郎助

原田忠次郎

富塚孫兵衛

佐竹源六郎

瀧江左近

茂木将監

松平安藝守家来

岡本与七郎

藤堂小学頭家来

藤堂小十郎

父藤堂式部

長谷川万太郎

母

鼻紙一箱

紗綾二卷

廿八日

尾張殿御暇付諸大名出仕無之尾張殿昨日以上使被遣之
為御礼登 城有之家来兩人御暇尾張殿御振舞老中被罷越

尾張義直就十三回忌小右門御暇付御礼無之

御鷹三連御馬三足被遣之

時服六羽折 家老 志水甲斐守 時ふく三羽折 番頭 藤田民部

廿九日

青山因幡守被為 召式万石御加増都合五万石被下之大阪御
城代被 仰付候旨御直に於御座之間被 仰出候是阿部備
中守跡也右之趣殿中伺公之面々雅楽頭傳之

今朝地震付國持より使者上ル

柳宮日記記

寛文二年

四月

朔日 御刀 安倍伊勢守

如例月諸大名 御目見有之參勤衆拾貳人

御鷹三連御馬 高嶺新坂衛

御鷹二箱 丹羽式部少輔

銀馬代 東卷 入院 本蓮寺

諸国出家三人

加茂社人三人

濃州衆三人

金馬代 參勤 松平下野守 松平薩摩守 松平信濃守 松平彈正太弼 森 美作守 永野監物 織田豊前守 一柳山城守 関 但馬守 朽木權之助 多羅尾權兵衛

銀馬代 參勤 桑山与三右衛門 伊勢兵部 伊勢兵部 光月院 善集院

東本 參上 高野宇治方

東卷 入院 善集院

一井上筑後守向後於款冬間 御目見可仕旨

一堀田助左衛門養子一郎兵衛へ申渡 奥 一色内藏助 奥 一色内藏助

先月廿七日内寄合之節伊丹播磨守宅一色内藏助

罷越播磨守討異岡田豊前守被罷是内藏助御代官

所駿州蒲原所替之儀付意趣有之旨内藏助注一封

差上之此段于今駁と 仰出無之以前風説を承知此之

○合于無誤 奥目内藏助手代花江百音御覽之内 高兵衛殿
仕○松平和泉守へ御預被成旨也

二日

御使 紀伊院使者 桑山与三右衛門

三日

一豊後美濃国同道御留守居紫塩硝藏見分二相越

一蜂屋七兵衛永見權七郎但見分寛新兵衛

三日

深川淨心寺（小堀下總守母之寺）江百石寺領被為附是小堀下総

守母堂菩提所也 彼母御局也

老中不残板倉隱岐守宅江家督振舞

御臺所衆辰巳弥二右衛門宅福地半之丞相越弥二右衛門

を切殺弥二右衛門弟手負半之丞寄合搦捕之委細不知

奥一尾張殿道中付奉書被遣之

一知恩院門跡下着付御片桐石見守事増上寺宿坊勤番御馳

走但四五日之間如此其以後以下行被沙汰由也

參府三付 上使被遣 上使美濃守 京極丹後守 松平對馬守 立花飛騨守

奥布施孫兵衛寛三郎左衛門但見分嶋田久太郎

四日

公家衆依參向御馳走人被 仰付之

勅使 御頭 中川山城守

柴村佐源太

九鬼長門守

関口作左衛門

溝口出雲守

岡上三郎兵衛

同

二九火消番被 仰付面々

永井右近大夫

水野監物

一 紅葉山火之番

土屋民部

朽木伊与守

加茂神主三人

御暇

奥 小栗又兵衛嶋田五郎兵衛見分森川小左衛門

五日

御目付之面々被為 召之如跡々被 仰出之万事可用儉約
旨存其趣為奢者相考之可致言上之旨老中并土屋但馬守
被仰渡之

日門へ上使上秋宮内太輔御菓子(枝柿)被遣之

奥 太田善大夫久保荒之助但見分宮崎助右衛門

六日

奥 一 幸若舞御覽其所舞出来之由^二 伊藤刑部左衛門

時服三 八郎九郎 時服式 權八郎 小野麻右衛門 組見分

一 御試之御茶牧野佐渡守差上之

上使御院頭

梅首鶏 水戸中將殿 德川右兵衛督殿 紀伊宰相殿

被下之 松平越後守 松平加賀守

同本多上佐守 保科肥後守

七日

一 色内藏助手代之者五人駿衆蒲原召寄籠舎被 仰付之
是内藏助蒲原所替之儀^二 付伊丹播磨守^三 意趣有之旨書
置差上之此儀^ハ 落着未相济^ハ 風説を承右之仕合不届也
其上支配之頭と云於内寄合之席討果重畳不届被思召手
代迄籠舎被仰付次内藏助御代官所之勘定是又五人之者
可相济旨申渡

高木伊勢守 荒木十左衛門

右^者 来年日光 御成^二 付 小屋場諸事為見分被遣之

日門へ上使豊後守来年日光山 御社参御法事等之儀且

又當月十七日御祭礼 付可有御登山旨被仰遣

一 高木伊勢守荒木十左衛門儀来年四月日光 御参詣之節

御殿宿割其外道中見分被遣旨

尾黄門使者

御暇 時ふく式羽織 酒井久左衛門

御暇 時ふく式

奥 芦野左近 明珍 但馬

時服十 御暇

願之通湯治可仕旨

伊達兵部少輔

名代市正

御書院番頭

御小姓組番頭

板倉市正跡

二種一荷被遣之紀州上使^二 付 御暇 金十枚

右於 御座之間 御目見

日光御門跡^上 上使

是^者 来年日光 御成之儀被 仰出也

幸若八郎九郎

同 權八郎

右^者 昨晚舞被 仰付候^二 付時服被下

梅首鶏五酒井空印へ被下 上使松平紀伊守

梅首鶏五ッ被下之

酒井空印 松平新太郎

松平大隅守 松平相模守

松平讃岐守 松平出羽守

松平安藝守 藤堂大学頭

松平大膳大夫 細川越中守

尾黄門家来 得監子 山澄主膳

松平大隅守家来 安藝子 嶋津又七郎

松平相模守家来 根津子 和田平作

参府之證人 銀馬代 尾黄門家来

銀馬代 拾二 得監子 山澄主膳

松平大隅守家来 安藝子 嶋津又七郎

松平相模守家来 根津子 和田平作

内膳子 松村庄九郎

松平大膳大夫家来 伯耆子 毛利吉十郎

松平右衛門佐家来 平左衛門子 黒田二郎大夫

大村因幡守家来 福田十郎左衛門娘乞

縮緬二卷 尾黄門家来伊賀子

坪内半三郎組見分本多左大夫 石河七郎左衛門

御暇之證人 時服二羽折

時服三羽折

松平相模守家来

和泉子 福田平内

松平出羽守家来

關ヶ由子 乙部外記

源左衛門子 神谷采女

松平相模守家来

民部子 鶴殿藤十郎

松平大膳大夫家来

土佐子 穴戸八助

松平右衛門佐家来

平左衛門子 立花惣三郎

大村因幡守家来

藏部子 大村權之丞

時服二

京極丹後守

松平對馬守

津輕越中守

桑山修理亮

小出大隅守

立花和泉守

溝口又十郎

増山彈正少弼

松平但馬守

松平阿波守

森 内記

伊達大膳大夫

有馬松千代

鍋嶋左衛門

知恩院御門跡参府^二 付 上使雅楽頭差添吉良若狭守

青山因幡守^ガ 銀五枚^{ツツ}

御臺様へ銀式十枚 銀三枚^{ツツ}

式枚^{ツツ} 表使三人

川さき

おかの

あふみ

むめ

金三枚拾四

銀馬代^{ツツ} 安倍丹波守

同 二男

同 主膳

同 主膳

同 主膳

同 主膳

同 主膳

同 主膳

同 主膳

同 主膳

同 主膳

同 主膳

同 主膳

同 主膳

〃 同 三男 同 弥平次

金五枚拾五 先國御恩拜領之御札 青山因幡守

參府 荒井ふ 土屋忠次郎

進物 京都ふ參府 土屋弥平太

紀州殿使者 半井炉菴

三浦長門守

右使者ハ伊豆守死去ニ付也 御徒頭

宇治江 御暇 都築弥左衛門

奥 炉庵跡江差出候所醫者之跡ニ御暇ハいやなる由座を立候段

右弥右衛門御目見可仕候處次第不同ニ付 御前江不罷出

之趣達 上聞曲事に被 思召切腹可被 仰付候といへとも

御赦免松平相模守 御預被成候猶又於評定所美濃守大目

付列座被 仰渡

御茶壺被差添宇治へ被遣之歩行頭都築弥左衛門今日御暇之

御目見可仕旨昨日被 仰出仍登 城雖然出席之次第老

中中支配之下知相背之任我意不出席然共 御滯座之衆

難然止付御俄弥左衛門病氣候故不罷出由美濃守言上之

被遊 入御也

御座間へ老中被為召之台命今日 御目見之属最前相揃

之趣依達 高聞 出御候處弥左衛門俄傾出云不出席之儀

御不審被 思召旨御穿鑿之条旨趣白地言上候處弥左衛

門存念重豈不屈ニ思召也然間切腹雖可被 仰付祖父以

來為御奉公人之間被有之松平相模守へ被成御預之旨被

仰出仍弥左衛門伯父近藤登之助御小男石谷五右衛門宮

中へ呼之 上意之趣美濃守傳之其後大目付兼松下總守北

条安房守御御目付本多作大夫へ右之通傳之弥左衛門へ評定

所ニ差遣之

九日

板倉市正石川能登守両組引渡在在之 御徒頭

宇治へ被遣旨 天野佐左衛門

梅首鷄吾 佐竹右京大夫へ御使番を以被下

同断於 御前雅楽頭拜領之

奥 松平助之丞組見分嶋田久太郎

十日 那須衆兩人

日光御門跡登山ニ付御醫師長元被 仰付

来ハ十七日日光山御名代 上枚宮内

同所 祭礼奉行 土井兵庫頭

梅首鷄五井伊玄蕃頭へ被下之御使番持參 病氣も御尋有之

太田原出雲野左近在所へ御暇被下

奥 日向半兵衛組鉄炮見分土岐十左衛門

十一日

来ハ十七日 御祭礼役人 内藤飛騨守

廿日 御名代 安藤對馬守

日光御門跡 品川内膳正

登山付

京極丹後守松平對馬守へ梅首鷄五御被下之御使番持參

佐竹修理大夫參勤ニ付 上使豊後守

於 御前豊後守美濃守梅首鷄三御拜領之

奥 横田二郎兵衛組鉄炮見分森川小左衛門

十二日

於評定所寄合稲葉美濃守出席

日光江被遣候面々御暇如例 神前之御太刀被渡之

妻木彦右衛門事千八百石御加増都合三千石御勘定頭被

仰付旨於 御座之間 御直ニ被 仰出之

當月日光十七日廿日 御名代 上枚宮内太輔内藤飛騨守

土井兵庫頭安藤對馬守 御目見

松平越前守參勤ニ付 上使美濃守

奥 坂部三十郎組鉄炮見分宮崎助右衛門

十三日

無品法親王尊光 御太刀目録編修ニ差取候之

智恩院御門跡御參向御目見 増上寺御白 方丈御門跡家来

奥 太儀御下向の旨上意 四人御目見

御刀 大久保兵部少輔

進物 知恩院坊官

武田玄了

岩波少進

藪 民部卿

武田主水佑

右御門跡今度為御學問増上寺へ御入也因茲今日へ不及裝束

御長上下被為召也

紅葉山上野増上寺御宮御仏殿江被献之

御向典家老招殿中御鉄炮玉藥三千貫日被進之

中根日向守組 山本四兵衛

石川能登守組 内藤傳兵衛

右三人屋敷被 召上之定火消屋敷時田權之佐住宅也

但喜左衛門拜領屋敷之作事有之ニ付引料無之傳兵衛四

兵衛ハ拜領地家無之ニ付引料金式百兩御被下之

右三人屋敷火消屋敷ニ被 仰付依之替地喜左衛門ハ都筑

弥左衛門上り屋敷傳兵衛ハ小笠原左大夫屋敷四兵衛ハ

松倉九八郎屋敷被下之旨

市ヶ谷万性院寺地是又火消屋敷ニ被 仰付

上枚播磨守參府ニ付 上使豊後守

奥 安藤彦四郎鉄炮見分土岐縫殿助

駿州御代官ハ初瓜到來紅葉山増上寺上野へ御進獻

十四日 御臺所与頭

右者天神下ニ番屋敷被下之 福田五左衛門

丹羽左京大夫參府ニ付 上使土井能登守是自當年初日

被遣之也

知恩院御門跡へ 上使吉良若狭守御禮看一種一荷被遣之

奥 幸若舞 御覽

近藤登之助組鉄炮見分

十五日

如例月諸大名 御目見參勤御札十四人

御刀 岡部志摩守 天野佐左衛門

奥 青山因幡守御禮之鶴三被下之 御暇

一
松平隱岐守去頃卒去惣領主計病身_二付跡式無相違_二男石見守被_一 仰付惣領主計頭儀依病氣相續難成_二付主計頭_并 祖父勝山日頃言上故右之通被 仰出之老中列座雅樂頭傳達之

長崎本蓮寺御暇東本願寺參府

松平越前守

佐竹修理大夫

上杵播磨守

丹羽左京大夫

松平大和守

淺野因幡守

松平備後守

相馬長門守

九鬼式部少輔

加藤織部正

松平伊与守

稲葉右京亮

相良遠江守

佐竹式部少輔

權僧正之御札
京大仏 知 積 院

兵谷 小 池 坊

宇治へ御暇
天野佐左衛門

宗 清

並坊主三人

松平太郎左衛門

末次平藏

本 因 坊

石原清左衛門

徒頭例年、金老枚雖被下之俄被 仰付_二付三枚被下之_一

東本願寺參府_二付 上使大澤兵部太輔

十六日

妙法院殿依下向雅樂頭被遣之 差添吉良若狹守

時服式羽折 御暇 被下之 千村平右衛門

堀 丹波守

右丹波守信州小室之在番被 仰付之在番に有之_二付以奉書被傳之_一

日光御目付代

奥傳奏御馳走人中川山城守

兩院使九鬼長門守妙門溝口出雲守

十七日

辰下刻紅葉山 御宮_江

御參詣御裝束(赤御直垂) 供奉

御簾

御太刀

御刀

御香

御先立

御供 豊後守 美濃守

紀伊相公陪拜 毘沙門堂拜迎

久我内府參府_二付為 上使

品川内膳正

井上太左衛門

阿部四郎五郎

増上寺破損_二付 御修復奉行

増上寺所々破損_二付為修復奉行井上太左衛門阿倍四郎

五郎被 仰付

植木奉行増井一郎左衛門子弥左衛門儀父之役儀可相助旨

十八日

御暇被遣候面々登 城拜領物如例内國持六人

奥 坪内又左衛門組見分

御儀式遣 御馬一疋

御銀五百枚 御百

御馬 御馬

御馬 御馬

御馬 御馬

御馬 御馬

御馬 御馬

御馬 御馬

御馬 御馬

御馬 御馬

御馬 御馬

御馬 御馬

銀五十枚時ふく六羽折 戸川土佐守

時ふく五羽折 市橋下總守

同断 久留嶋信濃守

同断 青木甲斐守

同断 建部丹波守

同断 遠山信濃守

同断 木下内匠

同断 松平出羽守

右来年日光 御成之御供被 仰付之今日在所_江御暇

御後頭 郡儀亦左衛門尉

大坂掃 御目見

松平伊豆守 跡式

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

松平伊勢守 同

上使豊後守 松平新太郎

美濃守 森 内記

御使番柘植平右衛門 松平但馬守

人 松平大膳大夫

同上 松平阿波守

同上 松平阿波守

同上 松平阿波守

同上 松平阿波守

同上 松平阿波守

銀百枚拾十

京極刑部少輔

同 斷

京極飛騨守

拾十

山内修理亮

銀百枚拾十

相良老岐守

// 五拾枚 // 五羽折

五嶋淡路守

同 斷 // 四羽折

土方備中守

拾四羽折

池田越前守

同 斷

織田信濃守

拾四羽折

平野權平

參府 清水が參府

細井佐次右衛門

御禮 御香一種

大澤兵部太輔

知恩院御門跡上

御菓子一箱被遣之

一 勅使兩院使今日參向御使雅樂頭吉良若狹守同道也

三種二荷 國元到着御礼

尾黃門使者 成瀬信濃守

先告上使久世大和守被遣奉申四月日光奉附付御禮

藤山宇右衛門

知恩院御門跡上使大澤兵部太輔御菓子被遣之

去十七日光御祭礼相濟之段二家使者被賣之

廿日

辰刻紅葉山 御佛殿御參詣御長袴供奉如何

御刀 大久保出羽守 御香 安部伊勢守

松平謙岐守 御目見 水戸羽林紀伊參議陪拝

毘沙門堂御出迎

供奉 美濃守 久世大和守 土屋但馬守

御先へ雅樂頭 豊後守

日光婦

上衫宮内太輔 内藤飛騨守 土井兵庫頭

廿一日

昨日 勅使其外 御對領觸有之

御暇 拾三羽折 藤山宇右衛門

弓削多源七組見分 服部久右衛門

廿二日

已上刻御白書院 出御 請御直垂

禁裏 仙洞御所 新院御所 親王御所 女院御方 右御

年頭之御礼御太刀黄金如例年被遣之

御太刀 本多土佐守 御刀 石川能登守

二條關白

同 撰政

一條前關白

一條右府

近衛亞相

照高院門跡

青蓮院門跡

長嶋之局

勸修寺巫相

飛鳥井亞相

柴山黃門

高倉黃門

妙法院門跡

一乘院門跡

飛鳥井亞相名代之使

伊勢祭主

土御門福壽丸

日 殿 院

原田伏伯

東本願寺新門跡

東本願寺家来

妙法院家来

御冠師木村筑後

御裝束師豊田伊織

御目付 安藤一郎兵衛 御歩行頭 神尾内膳 中山勘ヶ由

植村志摩守

安藤對馬守

石見守嫡男片桐長十郎在所へ御暇被下之拜領物無之

保科肥後守病氣為尋 上使板倉筑後守を以御菓子(枝柿)被遣

廿三日

右 御臺様進上物有之由

仙石越前守

右 病氣二付今年看於當地養生仕度由奉願之心次第可仕

旨其上火消来年迄御免之由同名兵部少二於殿中傳之

公家門跡方看上使二種老荷被遣今日公家衆上野參詣之

由 奥本多丹下組見分嶋田久太郎

妙門へ 吉良少將を以昆布一箱御樽一荷被遣之

兩傳 兩院使へ鶴一御樽一荷 被遣之

久我内府へ同斷被遣之何れも上使高家衆

參向之公家門跡東叡山參詣付諸士被遣之

奥井上河内守 水野監物 太田備中守 松平備前守 土井兵庫頭

廿四日

增上寺御仏殿御名代稻葉美濃守今日公家衆增上寺參詣候

由 增上寺へ

大沢兵部太輔 品川内膳正 水野監物 土井能登守

加々爪甲斐守 阿部伊与守

御目付 安藤一郎兵衛 御歩行頭 神尾内膳 中山勘ヶ由

植村志摩守

安藤對馬守

石見守嫡男片桐長十郎在所へ御暇被下之拜領物無之

保科肥後守病氣為尋 上使板倉筑後守を以御菓子(枝柿)被遣

御目付 安藤一郎兵衛 御歩行頭 神尾内膳 中山勘ヶ由

植村志摩守

安藤對馬守

石見守嫡男片桐長十郎在所へ御暇被下之拜領物無之

保科肥後守病氣為尋 上使板倉筑後守を以御菓子(枝柿)被遣

御目付 安藤一郎兵衛 御歩行頭 神尾内膳 中山勘ヶ由

植村志摩守

安藤對馬守

石見守嫡男片桐長十郎在所へ御暇被下之拜領物無之

保科肥後守病氣為尋 上使板倉筑後守を以御菓子(枝柿)被遣

御目付 安藤一郎兵衛 御歩行頭 神尾内膳 中山勘ヶ由

植村志摩守

安藤對馬守

廿五日
於評定所寄合美濃守出座去ル廿二日延引故也

登城
酒井空印

廿六日

公家門跡方明日御馳走御能被 仰付旨見物可在之由 上
表 出御 御座敷 上覽

明日御能^ニ付御三人方御両典^江上使

勅使
院使 へ 大沢兵部太輔
左馬頭殿 へ 松平備中守
右馬頭殿

妙門へ 品川内膳正
水戸中將殿へ 青山丹後守

久我内府へ 上杉宮内太輔
紀伊宰相殿へ 松平縫殿助

東新門へ 戸田土佐守
徳川右兵衛督殿へ 青山丹後守

奥 依田内藏助算助兵衛組見分 宮崎助右衛門

廿七日

辰下刻大廣間 出御 御能初ル

御刀 岡部志摩守 御能初雅樂頭 呉服渡同人

三番叟

高砂 保生 權右衛門 庄二郎 三郎兵衛
清二郎 庄二郎

田村 十郎兵衛 萬作 平十郎 久三郎 兵三郎 市右衛門

東北 十太夫 權七 新九郎 九郎兵衛

是界 同人 六郎次郎 源六 孫右衛門

祝言 七郎兵衛 甚之介 清次郎 長藏

末廣 傳右衛門 いくゐ 樋口 源介

犬山伏 半兵衛 喜左衛門 庄二郎

右御中入鳥目時服被下之如何例

今朝妙門と薰衣香二十袋被獻之

廿八日

勅答^ニ付諸大名出仕無之

已下刻御白書院 出御御装束勅答被 仰出候以後御暇

御太刀 本多土佐守 御刀 大久保兵部少輔

銀二百枚
綿百把
同百枚
同百枚
同百枚
拾六
同三十枚
時服六

勸修寺
飛鳥井
芝山
高倉

伊勢祭主

右之外坊官地下人北面銀十枚時服式^{ツツ}被下之

時ふく式

上使御使番

梅音壽五^{ツツ}

佐竹修理大夫

右へ上使御暇被遣之

御暇 土御門使者

清閑寺

家領之儀被仰遣之御合力米之内一倍^ニ差扣之都合三百石之積^ニ被成遣候

今日出御以前老中書付を以兩傳へ達

覚

冷泉家明月記之儀被仰遣候被成御心得書写^ニ仰付之可被成

献上旨之事

一 清閑寺家領之儀被仰遣^ニ付一位へ被遣候御合力米之内御差加

都合三百石之積可被遣旨之事

覚

橋本少將御番勤仕付^ニ方領之儀今度被 仰遣之被成御心

得之從當寅年地方百石可下旨 御意候事

廿九日

銀五百枚

綿三百把 御暇

御臺様と拾式十

銀二百枚 綿百把 御臺様と銀二百枚 段巻物二十枚

妙法院門跡

同家来五人

銀二十枚

拾五

銀十枚^{ツツ}

銀二十枚

拾五

銀十枚^{ツツ}

御臺様と

拾十

六

六

六

六

右御使山本平九郎久貝惣左衛門 奥 近藤小十郎大久保四郎左衛門組見分安藤一郎兵衛

菅谷左京
菅谷刑部
菅谷太輔

勸修寺

飛鳥井

芝山

高倉

(この部分重複か?)

柳營日記記

寛文二年

五月

朔日

如例月諸大名出仕有之參勤之御礼八人

御刀 松平紀伊守

參勤 裕四

金馬代 同所

銀馬代

織田山城守

松浦肥前守

戸沢能登守

遠藤備前守

毛利刑部少輔

小笠原山城守

松平石見守

松平石見守

代金三十枚

御茶壺玉杯

銀馬代 自分 御礼

長崎町奉行へ 嶋田久太郎

中興御奉公 中根一十郎

一束二卷

一束一卷

進物雜目

御暇

拾三十

御馬

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

銀百枚

拾十

拾四羽折

松平駿河守

中川山城守

鍋嶋加賀守

松平筑後守

藤室和泉守

佐竹右京大夫

御暇

銀百枚 上使豊後守 東本願寺

拾四 粟津石近

〃 〃 〃 織部

〃 〃 〃 松井外記

〃 〃 〃 栗津大学

〃 〃 〃 岡本伊織

〃 〃 〃 久我内府

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

〃 〃 〃 表使三人

五日

已上刻御黒書院 出御一門方御對顔大廣間出御諸大名

并 今日登城之面々御目見

御刀 松平紀伊守

金地院

知足院

最厳院

日吉大膳

井関治郎左衛門

酒井千熊

伏見勘七郎

御目見

右之面々 御目見

去朔日上方巳刻午刻地震之由注進

禁裏 院中 御安全方々破損之由

御暇時ふく式

雲州大社為御造當料銀子式千貫目被下旨寺社奉行へ達

今度地震ニ付能勢市十郎京都へ可造旨

六日

當朔日巳上刻京都地震禁裏院中少々破損二条御城外曲

輪少々破損上京町屋三拾軒潰五条場半分破損清水大分破

損大津御蔵ツフレ宇治御蔵ツフレ御茶壺無相違之

右之通作五日申刻注進

金三枚 御暇 能勢市十郎

右上方地震為見分被遣之

右之断ニ付諸大名より使者上

去三日指合延引之大名より今日端午之御祝儀被献之

一 諏訪部文九郎 門奈助左衛門

一 右府中 御馬買に被遣之

銀五十兩 女院御所正

初揚梅從豆州献上ニ付両山へ御進献之

初大豆欄原越中守献上ニ付両山へ御進献之

一 成瀬吉左衛門渡邊弥之助組見分土岐縫殿助

一 御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

七日

式日 出座 豊後守

紀伊 婦 御目見

梅首鷄五ツツ松平淡路守

上使 松平長部少輔

三ツ酒井空三印

八日

金五枚時ふく三羽折

是朔日京都地震ニ付京都御使

三宅弥次兵衛組鉄炮見分安藤一郎兵衛

觀世 保生

北十太夫

松平丹後守帰國御礼使者多久兵庫を以羅紗十間御着式種差

九日

駿府より初瓜進上之如何

御宮御佛殿被献之

御馬召之

銀十枚 觀世庄二郎

時服式ツ

三人當年分初見

山田勘左衛門

桶口久八郎

猿楽三人

十日

時服五

金馬代

時服五

金馬代

金十枚

時ふく十

銀馬代

右父伊豆守遺跡相續ニ付

參勤

戸田采女正

金十枚

御暇

自分御礼

同

金五枚ツ

大坂御目付

御暇

信州小室

御目付御暇

二条在

番場

東書

參府

御馬一疋

會津へ初

御暇

時ふく五

參勤

金馬代

時ふく五

羽折

羽折

先達上使之御礼

同

松平伊豆守遺物

御刀 貞宗

御茶入

伯耆肩衝

御臺様へ

古今 定為筆

松平甲斐守

銀五枚ツ

御臺様へ銀三十枚

川崎 三枚ツ

同野 三枚ツ

表使三人

尾州へ被遣候付御口上被官候

植村志摩守

深井藤右衛門

和利兵衛

寛 新兵衛

土岐十左衛門

能勢治左衛門

溝口源右衛門

岡部丹波守

松平豊前守

右組 中

野間三竹

保科筑前守

戸田采女正

松浦老岐守

津輕十郎左衛門

水野平右衛門

御刀 貞宗

御茶入

伯耆肩衝

御臺様へ

古今 定為筆

松平甲斐守

銀五枚ツ

御臺様へ銀三十枚

川崎 三枚ツ

同野 三枚ツ

表使三人

分都若狭守去頃

仙洞御所御作事手傳被

仰付候得共皆

上方之地震在所

江州大溝

令破損仕候ニ付手傳御免之由

溝口出雲守増上寺破損修復手傳被

仰付

石川六左衛門病氣ニ付御役被免之由豊後守傳之

駿河臺内藤傳左衛門蟻川喜左衛門山本四郎兵衛屋敷時田權

之佐被下之

市谷萬照院屋敷堀田五郎左衛門ニ被下火消屋敷ニ被下候

作事料各銀百貫目宛被下之

時ふく四

御暇

水野平右衛門

尾張殿帰国ニ付

上使植村志摩守被遣之為御礼右兵衛督殿登

城

知恩院御門跡へ

上使吉良上野介熟瓜一籠被遣之

一戸田淡路守組頭山角市左衛門御役御免

一田付四郎兵衛組鉄炮見分土岐縫殿介

十三日

表 出御

金三枚

同断

銀十枚時ふく式

右小諸之城付青山因幡守を請取ニ付

時服式羽折

同式ツ

松平安藝守家中證人

紗綾三卷

參府

時ふく三羽折

御暇

信州小諸城為御目付能勢次左衛門溝口源右衛門被遣ニ付

御黒印下知状被下之

十四日

時ふく三

御暇

分都若狭守領分今度甚地震ニ付

仙洞之御作事手傳先日

御免為代戸川土佐守被

大御番

戸田淡路守組頭

病氣ニ付

御役御免

上方地震ニ付

被遣

御暇

大森半七郎

渡辺筑後守

御代官

天羽七右衛門

御代官

佐野平兵衛

河合助左衛門

烏山市大夫

石原清左衛門

浅野右近娘

同人子

浅野清兵衛

松平丹後守家來

多久兵庫

十五日

安井大僧正禁中方御祈禱相助付 御目見被 仰付候也 女
院々度々被 仰造_{ニ付}也

如例諸大名 御目見在之參勤衆三人

二東一卷 初參府 安井大僧正

御札_并薰衣香十袋_ツ 若王寺

勝仙院使僧

太刀目錄_ツ 溝口信濃守

金森左京

左京儀義父左京跡式三千石被下初_ニ參勤也

御着_{一種} 堀田備中守

時ふく三羽折 御暇 小出三左衛門

探幽法眼_{二男}

初見進物 狩野主殿

進物參府 本阿弥_{一節右衛門}

時ふく三_{下館} 稻葉權之助

羽折 御暇 溝口内記

遠國出家兩人

上十日 戸澤能登守

上十日 秋田安房守

上十日 桑山修理亮

中十日 浅野因幡守

中十日 龜并能登守

中十日 九鬼式部少輔

下十日 相馬長門守

下十日 松平備後守

下十日 細川豊前守

右九人_著 火消被 仰付之

欠 安藤丹波守

右_著 向後菊之間_江 相詰山吹之間_二 御目見可仕旨

安宅丸船来月上覽可被遊旨破損所有之処致見分向井

兵部神保左京_江 老中被 仰渡之

但左京儀 先年も御船破損修復奉行勤_{ニ付}也

戸川土佐守

右仙洞御作事手傳被 仰付是分部若狭守代り

京都地震_{ニ付} 紀伊重相使者 九鬼半右衛門

十六日

關 兵部少輔

右安宅丸御船破損之所在之_著 見分可仕旨老中被傳是_著 先

年修復奉行被 仰付候也

津輕十郎左衛門へ屋敷被下之

時ふく三 御暇 紀伊重相使者

一 御馬召之 九鬼半左衛門

奥 一 空印病氣御尋松平民部少

十七日

辰下刻紅葉山御宮御參詣供奉御作法如何

御刀 大久保出羽守 御香 安部伊勢守

井伊玄蕃頭 御目見 紀伊參議陪拜 毘沙門堂拜迎

御先へ雅楽頭

来年日光 御參詣 付豊後守事諸事御用可奉旨被 仰付之

十八日

上方婦

能勢市十郎

伊井玄蕃頭

一色二郎兵衛

志賀金五郎

美濃部源右衛門

山下長右衛門

右_著 大御番_江 御番入

御目付中一人_ツ 西丸泊相助候処向後無用昼之内一度_ツ 可見

廻之旨

上使吉良上野介を以日門へ御菓子被遣之

十九日

井伊玄蕃頭御暇被下領分彦根去朔日地震城中及大破_{ニ付}

也 御鷹御馬被下之

奥 長崎近所_ニ 有之其上御心安被思召候_{ニ付}

小笠原右近大夫向後長崎之御役被 仰付只今迄松平勝

山相勤来候通沙汰可仕旨

青木遠江守御暇被下京都地震_{ニ付} 御用之儀被仰付之金

五枚時ふく三羽折被下之

大御番四人被 仰付十八日_ニ 名前有之

小普請

志賀金五郎一色次郎兵衛美濃部源右衛門山下長右衛門大御番

被 仰付之

廿日

辰上刻紅葉山御佛殿御參詣

殿中

御刀 岡部志摩守 松平謙岐守 御目見

供奉 久世大和守 松平民部少輔

御刀 松平因幡守 御香 大久保兵部少輔

水黄門 紀伊參議陪拜 毘沙門堂御出迎

宝樹院殿_ニ 御參詣

御先へ雅楽頭 豊後守 内藤式部少輔 松平備中守

廿一日

酒井空印_{ニ付} 上使土屋但馬守

廿二日

於評定所寄合豊後守出座

岡田豊前守本復以後初_ニ 登 城

尾張殿より巢鷹七進上之

御両典 巢鷹_二 被遣之

左馬頭殿へ 上使松平民部少輔

右馬頭殿へ 森川下総守

廿三日

酒井空印 上使松平民部少を以巢鷹式被遣之

奥 酉之后刻幸若舞御覽有之

巢鷹式 紀重相へ但在国付宰相殿_ニ 可相届旨

巢鷹_一 上使大軍主勝正 巢鷹式 尾黄門へ

兒鷹_一 紀宰相殿へ 巢鷹式 但在国付右兵衛督_ニ 可届旨

同断 右兵衛督殿へ

巢鷄式 水中将殿へ 同二 上使松平民部少輔 酒井空印

廿四日

辰下刻増上寺 御佛殿^江 御參詣

御供 土屋但馬守 御刀 石川能登守 御香 安部伊勢守

御先立 雅楽頭 松平謙岐守 御目見水羽林紀相陪拜傳通院拜迎

豫參 雅楽頭 美濃守

日門へ 上使品川内膳正楊梅一籠被遣之

崇源院殿 御仏殿^江 御參詣 奥還御懸知恩院御門跡へ美濃守被遣之

廿五日

日光御門跡^江 上使稻葉美濃守被遣之是者來年於日光山

御法事之儀^二付也 御用豊後守被仰付^二付万事可相達旨

依之從門跡使僧被差上之

保科肥後守へ 上使御側衆大久保出羽守 巢鷄式被遣之

於 御前巢鷄一兄鷄一雅楽頭拜頌之

今日尾黃門へ巢鷄被献之付持參候鷹匠飯田源一郎へ時ふく

式被下之

廿五日

御座之間^二右馬頭殿御對願先日巢鷄被遣之 參勤衆兩人

御礼也 保科肥後守召之近來兵衛之御道具 尾張殿使者 間宮大隅

之内中央卓^三櫛子大香炉^三御拜願之 是日大納言殿年忌付^二國元^二而 御法事相濟也

是大納言殿年忌付^二國元^二而 御法事相濟也 遠國出家四人

表出御 御刀 大久保兵部少輔

御暇 時ふく式十御馬 松平飛騨守 祖父飛騨守^ハ依為侍從以上被被下 當

時ふく式十御馬 松平飛騨守 飛騨守五位^二付如此 尾黃門使者

六羽折 木下兵部少輔 上方地震^二付 曲淵藤兵衛

參勤 金馬代 服部中務少輔 御暇金三枚時ふく二羽折 松平新平

銀馬代 溝口土佐守 御暇時ふく三羽折 武田泰安

時ふく六 永平寺 同 式^三 若王寺使僧

式 春木大夫 勝仙院

去頃於小石川傳通院前小栗五左衛門組御鷹匠同心伊藤

久右衛門と其所々町人八郎兵衛と喧嘩久右衛門刀拔之

八郎兵衛被寃仍其地之辻番出合久右衛門圍置之八郎兵衛

其場即時避去然所同心久右衛門傍輩數多馳集久右

衛門奪取之刺辻番之輩及打擲之旨辻番之族訴之穿鑿之

処旨趣無紛然同心之輩喧嘩之場へ懸寄其上辻番打擲

之儀甚曲事也斬罪雖可被 仰付以御慈悲御赦免喧嘩當

人久右衛門懸集同心之内山口平右衛門伊沢八左衛門

此三人御定之因々所々御追放也且又町人八郎兵衛事籠

舍被 仰付之

廿七日

日光御門跡 上使銀百枚是五月之御祈禱御布施也

時ふく四 御暇 間宮大隅 尾黃門使者

式 曲淵藤兵衛

從禁裏明月記御所望^二付書寫被 仰付於傳奏屋敷自今日調

之所謂筆者

天沢寺内 徹藏主 柯藏主 隆藏主 瑞藏主 津藏主

海禪寺内 徹首座 通首座 琢首座

養源寺内 瑞藏主 傳藏主 宅藏主 祖純 祖才

吉禪寺内 林悅 祥雲 是真 安祝

青松寺内 嫩桂 祖珍 是主^ハん^ハ龍

右之内自然煩差合等有之節^ハ為代 養源寺内 祖純 天沢寺内 郁藏主

海禪寺内 圓首座 吉禪寺内 不遠 青松寺内 了且 宗寒

此内罷出可出之由也

春齋官元伯元代々一人^ツ御書物奉行関平左衛門三雲

平左衛門淺羽三右衛門是又一人^ツ毎日可相詰^云御振

舞毎日昼一度^ツ精進料理御賄方沙汰之給仕^{表坊主}

五人^ツ相越 茶之湯有之臺子御數寄屋坊主一人^ツ相詰

廿八日

如例月 御目見有之祝言相濟

松平對馬守

岡部内膳

松平伊与守

龜井伊豫守

有馬内膳

内藤右近

松平午之介

由比吉兵衛

戸田采女正

右去朔^ル京都地震^二付二條御城石垣破損手傳被

仰

南部山城守より初鮭献上之

時ふく六 婚姻御礼 松平對馬守

四 龜井能登守

四 岡部内膳正

四 有馬周防守

三 朽木伊与守

三 内藤右近大夫

御暇時ふく三羽折 織田式部

掃国御礼 松平越後守使者

鶴一羽 荻田主馬

銀馬代 自分御礼 同人

進物 御代官 山高孫兵衛

廿九日

在番改有之二条掃 松平豊前守

岡部丹波守

三枝八郎左衛門

石谷五右衛門組御歩行組頭一人不足 付被仰付之

狩野法眼

右法印被 仰付之但し御礼醫師法眼之跡^二而 可仕候旨

被 仰渡之御礼

狩野永真

植村志摩守

狩野探幽法印 同采真法眼^二被 仰付雖然探幽向後御

礼之節只今迄之通醫師法眼之跡^二付可罷出采真儀^ハ繪

師同列^二御礼可申上旨也

長崎町年寄

御暇時ふく式

高木作右衛門

〃 銀十枚時ふく式

御代官

末次平藏

禁中方御作事有之付狩野探幽榮真右近采女大学京都へ可遣旨

時ふく四金三枚 探幽 時ふく式金式枚 榮真

金一枚時ふく式(采女 右近) 金一枚 大学

奥 伊奈兵藏御代官所々初燒米上之^二付

御宮御佛殿へ新米御進献之

〃 探幽儀繪之上手^二年^三も寄候所先祖^二成候例も有之由達

上聞候間法印^二被^三 仰付候難所繪之上之法印之事^二候へ

御礼之儀^ハ跡々之通法眼之末^二可罷出之旨豊後守申渡

之次永真儀狩野之惣領^二年^三はいもよく候間法眼^二被^三

仰付之^二是も繪之法眼^二被^三 仰付候間御礼^ハ跡々之通御勝手^二

〃 可申上旨申渡之

晦日

南部山城守々巢鶏式献上之

植村志摩守尾州々婦參付於 御座間 御目見

奥 空印氣色^二付以上意清庵被遣之

柳宮日記記

寛文二年

六月

朔日

如例月諸大名出御 御目見

御刀 大久保出羽守

時ふく式十御馬被下

當年^ハ詰番といへ共地震^二付二条御城中石垣破損修復御

手傳被^二 仰付依之御暇

時ふく六羽折

右拝領物有之是二条御破損修復手傳被^二 仰付也

遠國御代官 永見新右衛門

酒井空印氣分御尋 上使松平民部少

御使頭 石川六左衛門尉

上使植村志摩守被遣候御礼

二種二衛 銀馬代時ふく三

進物 杉田九郎兵衛

〃 諸星惣右衛門

〃 八木但馬守

〃 御暇時ふく四羽折

〃 〃 三

〃 〃 三

〃 〃 三

〃 〃 三

〃 〃 三

〃 〃 三

〃 〃 三

〃 〃 三

〃 〃 三

〃 〃 三

〃 〃 三

〃 〃 三

〃 〃 三

〃 〃 三

〃 〃 三

佐久間備中守

岡部主税

本多内膳

板倉筑後守

〃

〃

〃

右禁裏御普請為見分可被遣候間

空印^江 上使

右善右衛門親類故追拂被^二 仰付之

善右衛門招之美濃守傳達之是頃日八右衛門宅へ善右衛

門相越理不尽^二欲八右衛門於令切其刀八右衛門奪取之

相續^二善右衛門子八十郎馳來又欲八右衛門於令害是又

刀奪取を隣^下輩出合押隔双方無異儀其後度々御穿鑿之所

八右衛門申云遺恨之子細曾以無覚悟唯乱心歟^{云々}善右

右衛門申云頭相替砌^ハ從前之組中請人改之新手持取之

源右衛門事頃日組依預如先例組中之者其銘々手形取

之へき旨右式人之組頭急度加源右衛門下知依之組中相

改河合十兵衛手形如何有之時山口七左衛門を以疾取之

云々善右衛門申云組中手形之儀組頭式人懸相談取之儀

勿論也然^二一人刺好之者を以竊取之且頭背下知且任自

由畢意被致^被殘條甚無念之至所詮打果可遂鬱憤奉存石之

仕合^{云々}誠未練無骨之所為所不足言也八右衛門儀其身

無意^二式人共刀奪取之於其働^者雖無子細源右衛門背下

知任我意之故を以如此許事出来然^者不輕罪科仍双方被

處同罪也又七左衛門儀^者不調法成使致之付^而也

者 齋藤美作守御奉公振御意^二不應^二付御直^二も御叱り老中

も被^二 仰付御しかり有之しかり候いへとも其騒無之急^二

可被^二 仰付候へとも摂津守の子故^二よりて表へ被出之

家^フこの御旨次第の

●一 小普請大木伊兵衛小十人組へ入

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

四日 於評定所寄合美濃守出座

酒井日向守

右於御座之間信州小室城主被仰付七千五百石御加増都

合三萬石に被成下日向守取来式萬石^{○武千五百石之所}雅楽頭 御預

毘沙門堂門跡

右圓覚院へ達之

五日

御暇時ふく一 八幡 豐藏坊使僧

信州小諸御目付 能勢次左衛門 溝口源右衛門 同所在番堀丹波守へ次飛脚

小諸城酒井日向守へ被下付^而也

帰国^二付 使者 宗對馬守

六日

松平讚岐守

右御暇於 御座之間 御目見 御前^二而 御鷹一居御馬拜

領之来年日光 御供可仕旨

美濃高木衆三人

小笠原安藝^一御預々五十挺立之御船安宅 上覽之刻可出

之旨

御暇時ふく式羽折

高木新兵衛 高木四郎左衛門

高木藤兵衛 宗對馬守使者

時ふく式羽折

七日

奥空印御尋瓜被下之上使民部少

京都帰 大沢兵部太輔

猿樂四座共招殿中當年^者老年代に仕薪之能可相勤神事

料米^者御暇之年計四座共^二被下候由老中傳之

和州春日神事能付^而猿樂共連々訴訟及 上聞今日被 仰付

申渡

覚

一 春日兩度祭礼之時今春保昌金剛此三人之内兩人ツ^而

相動残一人へ江戸へ可相詣觀世大夫へ只今之通毎日

へき事

一 春日兩度祭礼料として八木五百石ツ^{米カ}年々被下せうろう事

右之通四座之大夫へ申渡

保科筑前守當年初^而御暇在着^二付兩種献上之

八日

御暇時ふく式

明後十日於晴天^者安宅御船為 上覽可遊 出御旨被 仰

出然^者可致供奉之旨寺社奉行奏者番詰衆之内役人大目

付町奉行御勘定奉行御作事奉行等へ達之

於駿府大久保石見守元屋敷松平新平下屋敷^二被下之旨

九日

無事

十日

今日安宅^江御成^二付先雅楽頭美濃守土屋但馬守御詰衆御

近習之面々被相越巳刻 出御御供久世大和守板倉筑後守

松平民部少龍口より安宅丸之前迄御船被為召則安宅^江被

為移高覽此時向井兵部御熨斗献之暫時有て御船被為召

之天地丸被召替行列^二而 川口迄被為也ツクタシマ前^二御

船留於此所天地丸^二而 御膳被 召上則兵部御樽着^并蓬萊

進上之過^而川御座船被 召替未刻 還御

御船行列

安宅舟可被遊 上覽之旨兼^而被 仰出候

命向井兵部知先例御舟加筋船仍今日

被回 台廻已后刻 出御御引繼御舟

白龍口被浮 御船^常御船直渡御平安定船

先于御成候候之面々^于於於安宅船中

奉謁 台廻暫 御遊覽之後被從天地丸

御船自是前艇後乘之舟整行列同汎

哉東川矣御舟漸進到于佃嶋南海邊

進退以金鼓其飾鼓及尺悉^而

面々案切之所^並居 竹垣之外

御目見何も御到有之橋下之段 御着座

御先勤之者橋下廣所 並居御跡^而

可參旨上意 御舟被召改

天地丸

御島松

小八組

御馬

傳馬

御召替馬

御島松

大河御座

傳馬

御島松

傳馬

御島松

傳馬

御島松

傳馬

御島松

傳馬

御島松

傳馬

御島松

傳馬

御島松

傳馬

御島松

傳馬

御島松

傳馬

御島松

傳馬

御島松

傳馬

御島松

傳馬

御島松

傳馬

御島松

傳馬

御本丸御留守居豊後守森川下総守酒井日向守常々御留守居衆

還御以後為御機嫌伺御一門方國持大名より使者上候諸大名登城

其行列如斯敷刻 御遊興其後被寄御船佃嶋於是御膳被

召上之に時伊奈半左衛門綱引之魚献之乃使庖人調味之

供御膳此節有命雅菜頭美濃守大和守但天守御料理被下之

供奉之面々設置於重酒肴等於松中各賜之

一向井兵部御樽御盃臺等献之其後有御御盃臺御酒向

井兵部へ被下之

一自佃嶋被召改常之御座敷直 還御從龍口至于御玄間被

駁御馬未刻入御于御本城

御先へ參上之面々 酒井雅菜頭福葉美濃守土屋但馬守高家

衆不残青山因幡守酒井河内守阿部播磨守寺社奉行詰衆

不残御奏者番大目付兩人 北條安房守兩町奉行之内一人

渡辺大隅守御勘定頭兩人共 曾根源左衛門御作事奉行

不残長崎奉行一人 嶋田久太郎 中坊美作守御使番兩人 尾西

藤兵衛 御目付兩人 森川小左衛門 新番 大久保市十郎組共 御

江原守右衛門 御目付兩人 本多佐太夫

歩行二組 (大久保彦兵衛組 兼松又四郎 阿部小右衛門組 進物番之非番十人 松中給仕 御持筒二

組 坪内平三郎 但御番所有之川口御番御歩行二組 朝倉仁兵衛門組 中西圖書

供奉之面々 久世大和守板倉筑後守松平民部少輔御側衆御目付兩人

土岐健殿 御供番之 御供番 御小姓組一組 本多上佐守組 御供番 御書院

服部久右衛門 御小姓組一組 助 輔村志摩守

番一組 青木右衛門組 小十人組一組 此外非番之頭 加藤午之助大平角助

歩行二組 能勢市十郎組 此外非番之頭 加藤午之助大平角助

國野兵十郎組

御城留守 阿部豊後守森川下総守 奏者番當番酒井日向守大目付

之内一人 兼松下總守 荒木十右衛門 御留守居

衆 御留守居番 右之外諸番之番頭 當番之面々 還御

之後有御意今日御船へ伺公之面々為御礼各登城

十一日

向井兵部事御座之間被為 召安宅丸天地丸龍王丸右三

艘御預被成其上千石御加増被下之水手都合百人^ニ被成候

旨 御直被 仰付

時服四羽折

時服三羽折

金二枚

時服三羽折

金二枚

時服三羽折

時服三羽折

銀十枚

五枚

右昨日御船に^ニ被為 成候付被下之

於御座之間夜に入幸若舞被 仰付之

松平大隅守家來證人參勤

太刀目録

時服三

御暇

時ふく三羽折

奥空印^江 瓜被下之御使民部少

十二日

於評定所豊後守出座

御召羽織

金十枚

二種一荷

御暇時ふく十

神保左京 兵部少輔

關 兵部少輔

小笠原安藝

間宮造酒之佑

小濱佐右衛門

土屋忠兵衛

坂井八郎兵衛

伴 作平

向井式部

伊奈半左衛門

鈴木修理

木原内匠

榎木庄左衛門

渡邊五郎作

鈴木二郎兵衛

北江作左衛門

金馬代

銀馬代

時ふく三十御馬

式十

十羽折

十

十羽折

十

五羽折

五羽折

銀百枚時ふく十

時ふく五羽折

四羽折

五羽折

時ふく六羽折

三羽折

三羽折

五羽折

三羽折

三羽折

七羽折

戸田伊賀守

小笠原大和守

菅沼主水

本多内膳

本多内記

松平下總守

松平丹波守

松平主殿頭

岡部内膳正

諏訪因幡守

松平將監

秋田安房守

龜井能登守

新庄越前守

堀 美作守

細川豊前守

酒井大学頭

松平帶刀

山崎勘ヶ由

内藤左京亮

小笠原彈正

脇坂中務少輔

太田備中守

榊原勘ヶ由

市岡理右衛門

宮崎三左衛門

同 清大夫

伯 安

岩井与左衛門

德 助

御膳

御膳

御膳

十三日

御暇

時ふく三十御馬

式十

十羽折

十

十羽折

十

五羽折

五羽折

銀百枚時ふく十

時ふく五羽折

四羽折

五羽折

時ふく六羽折

三羽折

三羽折

五羽折

三羽折

三羽折

七羽折

葉一包

御暇銀十枚

時ふく式

本多内記

本多監物無美子^ニ付跡式老萬石本多内記末子才兵衛被

仰付之旨^江内記^者老中^二被傳之是^者監物^ニ存命之内奉願候^ニ付

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

十四日

昨晚甚風雨^ニ付^一門方國持衆より使者上^ル

御暇時ふく三羽折

〃 式

〃 三

銀十枚時ふく式羽折

能勢武左衛門

右酒井日向守元知行伊勢崎領請取被遣^付也

自京都次飛脚去二日 内侍所御柱立首尾克相濟之旨注進之

十五日

今日山王祭礼^ニ付諸大名例年之通出仕無之 巳刻御矢

倉^江被^為成祭礼上覽之午刻終^而二丸渡御未刻 還

御

山王御礼^ニ忝枚最勝院より如例進上之

十五日出

日光山去^ル十三日之風雨に夜寅刻大水出石垣等崩破地御

目付小屋ツフレ田中三左衛門同心之者十人死^ス寺一字ツ

フレ九人死町屋ツフレ百四十余人死^ス

右之通十四日注進之

十六日

御嘉定 巳刻大廣間 出御如例年

御刀 松平紀伊守

永井伊賀守

右^者日光山洪水^ニ付^而為見分被遣之今日發足

日光山去十三日寅刻洪水出御目付屋敷へ水入家石垣等

不残押流田中三左衛門^并僕從十人溺死其外稻荷川町屋

式百七十軒余之処悉押流^{大軒計雖}死人〇西川原町九軒

余有之処七八軒残死人都合百六十人余何も死骸不見^{云々}

右之通昨日梶佐兵衛藤掛監物^ノ次飛脚注進之

日門へ上使戸田土佐守被遣之去十三日日光山洪水^ニ付

也

右^ニ付兩典厩三家^ノ使者被差上之

十七日

紅葉山 御宮御名代美濃守參詣

井上河内守

加々爪甲斐守

妻木彦右衛門

可承候旨被

仰出之何も豊後守任差圖御用可勤旨

柘植平右衛門

右^者日光御目付田中三左衛門代被遣之

奥空印御尋本多土佐守

十八日

内藤豊前守雖參勤病氣付 以使者らうそく三百挺献之

御暇 時服四羽折 太田原山城守 病氣^ニ付名代枚野半右衛門罷出

時ふく三 松平相模守使者

松平安藝守使者

石川若狭守へ上屋敷被召上 付替地可被下旨

十九日

宇治掃

金式枚

継目御礼

本多内記甥監物病死無実子^付遣領一万石被下之^ニ付

金三枚 御加増御礼

時ふく五 右^{信州}小諸城主被仰付御加増七千五百石都合

三万石^ニ被成下之御礼

金三枚 五千石御加増合五百石

〃 式枚 五千石御加増合五百石 御加増御礼

〃 志枚 千二百石御加増合千石 大坂在番

〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃

銀馬代 下船在番

御暇

時ふく三十

松平石見守

〃 六羽折

〃 五羽折

〃 四羽折

〃 〃

金五枚時ふく五羽折

同断

銀馬代

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

鳥居主膳正

丹羽式部少輔

酒井備中守

溝口土佐守

戸田淡路守

戸田備中守

本多飛騨守

松平市正

天野佐左衛門

宇治掃

宗恩

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

宗清

一 今日大御番内藤六左衛門と申仁氣違^并辻番之者切殺し

主家に火を附自害候由

北条右近大夫組内藤六左衛門^并子平兵衛父子共ニ乱氣付

而平兵衛身老人次^ニ召仕之女等又ハ辻番之者式人切殺

其以後家^江令放火六左衛門平兵衛共ニ自害

松殿家之千石九條太閤^江被為附之太閤御一期之以後右大

將殿^江被遣度之旨以使者切々被 仰越之則御願之通被

仰出候^江付右家来右馬頭招殿中老中被傳之

松殿知行千石事松平^殿逝去以後九条太閤へ 大猷院様御代

被遣之彼千石之領知九条殿家領へ被差添度之由再三以

使者被訴之今度及 台聞太閤御一期之後ハ左大將殿へ可遣

旨被 仰出依之使者天野右馬頭へ被 仰渡

先日巢鷄被遣之御礼 紀伊郡租使者 落合九十郎

土用入御機嫌伺 野中六右衛門 阿部彦右衛門

永井伊賀守日光^ノ婦謁日光洪水見分婦也

遺物御刀 包水 銀五枚ツツ 本多監物

御臺様へ 代金七枚五兩 〃三枚ツツ 〃おむめ

金一枚晒十疋 酒井日向守 〃三枚ツツ 〃あふみ

落合源右衛門組之与頭 被 仰付旨源右衛門へ被仰渡

奥二丸御乘馬

廿日

上野御仏殿御名代豊後守参詣

日光山稻荷川辺町人^江八木被下之是洪水^二付及餓死付^面也

永井伊賀守昨日日光ノ帰参^二付今日 御目見彼地洪水之様子申上之

奥内藤六左衛門数年氣違長子平兵衛乱氣^二付第一入辻番二
人切殺弟^二手負家^二火を付父子共相果

廿一日

安宅船可見物旨被 仰付之右^二付奏者番一人御留守

衆式人御目付一人罷越可致馳走旨被 仰付之

御両典明廿二日。御船^二御出可有之旨森川下総守^ヲ以被仰出之

一 向井兵部招殿中明日御船^二御両典御船天地丸^二召之候間可得其意之由大和守但馬守被傳之

松平備前守
伊澤準人

北條右近

森川小左衛門

右^者御両典御出御馳走人被 仰付之

一 跡目被 仰付候面々

土佐守兼子弟

播磨守惣頼

越中守兼子

藏人子

大関主馬助

伊丹五左衛門

屋代甚三郎

酒井頼母

右^者面々山吹之間^二面老中傳之

一 伊勢伊雜宮^并宮瀧原宮大破^二付修復奉行被 仰候面々

修復奉行

内藤飛騨守

八木但馬守

一 上方筋去^ル十三日洪水之由淀川之水常に老丈四尺増申由

從京都飛脚五機内^并近江三河遠江去十三日風雨洪水之

由注進之

知恩院御門跡へ 上使品川内膳正御菓子被遣之林檎一籠

伊丹五左衛門実子無之^二付弟大藏齋子願之通被 仰付之

御暇時ふく式

井伊立善頭使者

大久保勘兵衛

（日記記も廿一日 廿二日か）
廿一日

於評定所寄合美濃守出座

一 今日左馬頭殿右馬頭殿安宅御船被為見物依之御馳走人

松平備前守御留守居伊澤準人北条右近大夫御目付森川

小左衛門被 仰付御跡より森川下総守被遣之松平因幡守

以瓜^{甘瓜}リン^{林檎}コ被遣之

中奥御小姓五人能勢山城守松平大学井上兵庫頭小堀下

総守大久保安房守御茶道方宗圓宗有同組之坊主四人御

同朋福阿弥組頭道巴同与之坊主十人相越

一日光御門主病氣^二付 上使戸田土佐守

當秋大坂加番被仰付

福垣信濃守代

脇坂中務少輔

本多越前守代

丹羽式部少輔

六郷伊賀守代

市正曲輪

酒井備前守

森川伊賀守代

溝口土佐守

青屋口

廿三日

御両典昨日之為御礼登 城

一 覚

きりしたん宗門之事累年雖為御制禁令以断絶無之自所

々とらへ来候間御蔵入方寺社之輩在々所々町人五人組

又へ宗門之且那寺に弥入念相改へし自然不審成者於有

之へ其所之給人御代官^兼不然へ於江戸北条安房守保田

若狭守所へ急度可申出候若かくし置他所あらはるる

おゐては其所之名主五人組まで御穿鑿之上可被行罪

科之旨兼て申きかせ無油断可遂検議者也

右之通三奉行へ達之

廿四日

増上寺 御佛殿御名代美濃守参詣

御暇時ふく式

伊達大膳大夫使者

廿五日

明廿六日安宅御船為見物可有御出由 上使

水戸中侍殿

御書院番頭

徳川右兵衛督殿^正

御小姓組番頭

紀伊寄相殿^正

御書院番頭

大草主膳正

御馳走人井上河内守本多美作守瀧川長門守被 仰付其

外諸色先日両典御見物之節之通可致沙汰旨

右為御礼登 城有之

一 明日御三人方安宅丸為見物御出 付御馳走人被 仰付之

一 酒井空印病躰為可被 聞召之御使森川下総守被遣之

廿六日

上方

橋

渡邊筑後守

大森半七郎

今日水戸羽林紀伊相公徳川右兵衛督殿安宅見物^二御

出候依之昨日被 仰付候御馳走人井上河内守本多美作守

瀧川長門守御目付安藤市郎兵衛右御先^江被相越 上使本

多土佐守御菓子（熟瓜一籠林檎一籠）被遣之

中奥五人堀田對馬守石川市正岡部阿波守小堀下総守松

平大学御茶湯方宗圓休盛同与之坊主四人同朋琢阿弥然

宗同与之坊主十人此外徒目付一人御小人四人相越之

但紀伊宰相依所勞不被相越 霍乱

筋違橋より御出安宅見物其後大龍丸乗移つた嶋前^二

廿七日

水中将尾右兵衛督殿昨日御船見物御礼被登 城

廿八日

例月之出仕御目見有之参勤衆三人御暇衆三人

参府

谷 庄兵衛

一 小笠原右近招殿中長崎御用之御書被下^并小石川下屋

敷内より石川大隅守市谷屋敷指替度之由奉願候^二付

心次第^二可仕旨被 仰渡之旨老中申渡

参勤御礼

時ふく四金馬代

本多能登守

銀馬代

高力左近大夫

”

本多一学

安宅殿
上覽珍重之由

尾黄門使者

木村吉右衛門

御暇

時ふく五羽折

小笠原土佐守

” 三羽折

松平志摩守

同断

左馬頭殿城代

渡辺六左衛門

進物

八丈の参上

谷庄兵衛

御暇被下物無之

最上刑部

廿九日

土御門福壽丸より名越之御祓献上之

未上刻 出御御頂戴御暇三人町人

御暇時ふく三

尾黄門使者

木村吉右衛門